



名古屋市立大学大学院
経済学研究科教授

程島 次郎氏

オープン
カレッジ

今日と来週の2回にわたって、アメリカ統計学会(American Statistical Association)で、**米国大学教授給与サーベイ**を読んで(1)

毎年行われている大学教授の給与のサーベイデータに基づいて、米国の大学教授の給与と日本のそれとの……
はい、いま、計量経済学、ファイナンス、統計学。カリフォルニア大学バークレー校博士課程修了。1950年生まれ。
違いについて考察してみた。アメリカ統計学会の給与サーベイは、毎年行われており、統計学部の学部長や統計学部に属していない教授にアンケートをした結果である。かつて私が学会員だった30年前にもあった歴史のあるサーベイであり、サンプルサイズなども公表されているかなり信頼性のあるものと考えられる。こういう給与に関する細なデータは日本にはなく、興味深い情報が得られるので、ここで取り上げる次第である。今回載せているのは、2012と2013年の教育が重視されているのは、20位25%点、中央値、上位25%点、上位10%点が与えられて

上位校ほど日本より高額

表1 2012~2013年の大学給与サーベイ

ランク	下位25%	中央値	上位25%	上位10%
講師	\$58500	\$63300	\$64800	NA
准教授	\$60600	\$68400	\$80000	NA
教授	\$76500	\$82900	\$106000	\$138800

表2 2012~2013年の大学院大学給与サーベイ

ランク	下位25%	中央値	上位25%	上位10%
講師(0~1年)	\$75000	\$82000	\$85000	\$89600
准教授(0~5年)	\$77100	\$86300	\$92000	\$102200
教授(10~14年)	\$108700	\$126400	\$157500	\$179000

いる。学部の中では就職がしやすい統計学というところを海外の研究者から聞いている。米国では統計学部の給与は、一般に経済学本にはな部より低く、また経済学部外には米りビジネススクールの方が高い国をほじめとしは需給を反映していると考え、世界に存在している表1では、ランクごとのおとの在職年数は区別されており、増加傾向にある表2では、在職の統計学年数が示されている。この2つの表から、次のよう部の学生が分かる。大学と大学院大学では後者の給与が高い。全般的に講師や准教授より教授の方が大学と大学院大学の給与の差が大きくなる。大学院大学はランクによる差が小さいが、大学院大学は給与の高い大学ほどランクの差が大きくなる。評価が定まる教授については、評価の高い教授の給与は高くなる。1ドル=100円の為替レートで日本の大学教師の給与と比較すると、日本の大学の給与は、米国の教育中心の大学の給与に近いと言える。米国の大学院大学はトップクラスの教授は30万ドル、ノーベル賞クラスだと50万ドルの給与を出すという話を、4、5年前に欧米の教員から聞いたことがある。米国の上位の大学院大学との差は大きい。

